

## 大会概要

場所 フィリピン タガイタイ (マニラ空港から約 60km)

種目 クリテリウム・ロードレース

・MTB クロスカントリー・MTB エリミネータ

期日 2016年3月17日～3月20日 (派遣期間 3月15日～3月21日)

## 選手団

スタッフ 三宅秀一郎

ロード 伊藤宏人 順天堂大学

小玉 凌 中京大学

小林和希 明治大学

猿田 匠 東北学院大学

富尾大地 鹿屋体育大学

馬渡伸弥 鹿屋体育大学

榎木祥子 駒澤大学

斉藤 望 日本体育大学

谷伊央里 日本体育大学

中井彩子 鹿屋体育大学

MTB 前田公平 法政大学

相野田静香 松本大学

## レポート

16日 練習 宿舎は外部との出入りをゲートで警備員がチェックするような高級別荘リゾートエリアのなかにあり、その外へ自転車で出るとは許可されなかった。ロード陣はエリア内を軽く1時間ほどトレーニングした。その際フィリピンの選手にクリテリウムのコースを教えてもらい登りと下りしかないことを知る。MTB陣は会場が車で2時間かかる場所らしく、2回目に設定されていた時間を2時間遅れで出発したものの運転手が道に迷って練習出来ずにホテルに戻って来てしまった。

17日 クリテリウム

宿舎から近いことだけは助かったのだが、およそクリテリウムと聞いて想像できない20%近い勾配の登りと下りのみの1.8km周回コースで行われた。-2LAPになると降ろされる。女子 20周5周毎のポイントレース方式で争われた。きつい登りのせいで1回目(5周目)のポイント周回までに榎木を含む4名の先頭集団とそれ以外のバラバラになって走る選手と言う構図。間もなく一桁順位で走っていた中井が落車。2回目のポイント周回(10周)

時点で走路上には 4 名の選手しか居ない。榎木は遅れながらも 4 位で走りきった。斎藤 9 位、谷 17 位、中井 DNF

男子 30 周 6 周毎のポイント方式。

1 周目馬渡が先頭で戻ってくるが、きつい登りでばらばらとなり日本選手は 2 周目には先頭集団に誰も居ない。10 周するころには日本選手は全員降ろされてしまった。最後は女子同様 4 名しか走っていない。途中まで全員をラップしそうだったオーストラリアの Monk をフィリピン Cayubit が逆転し優勝した。日本選手では伊藤が一番前で走っていたのだがチップを使っているのに何故か違うリザルトになっている。チェックすると約束してくれてもノレンニウデオシ。富尾 22 位、小玉 23 位、伊藤 26 位、馬渡 31 位、小林 34 位、猿田 36 位

18 日 ロード

当初 20 日に予定されていたが、日曜日の公道閉鎖が難しいとのことで 18 日に変更された。スタート地点までバス移動。MTB の選手がサポートにまわった。

女子 80 km 前日の夜 10 時に レース開始時間を 9 時から 8 時に早めることとホテル出発時間を 7 時から 6 時に変更する旨を聞く。朝食は 5 時から取れるとなっていたが、予想通りレストランの鍵が開いていない。とにかく 6 時に出られるよう準備したが、送迎の車も遅れ、ホテルを出たのは結局 7 時であった。さらにスタート地点にチームカーが準備されておらず、チームカーが揃ったのが 9 時、スタートは 9 時 15 分という・・・

クリテで優勝したドイツの Kasper はワールドカップ上位入賞のプロ選手。今日は序盤 30 km までの 6 つの登りでどこまでついて行けるかにかかっている。リアルスタート地点に到着前に中国の選手が遅れている。上と下の格差が大きすぎる。一つ目の登りで先頭は 5 名榎木が付いて行っている。後はばらばら。6 つ目の登りの途中で榎木が遅れる。下ると残り 40 k ほど緩い登りが続く。無理して登りについて行った榎木のスピードが落ちる。斎藤とコスタリカの選手との 2 名に抜かれる。コスタリカの選手が前に出たがらないので斎藤が途中でアタックを繰り返すが引き離せない。この動きでスプリントなら斎藤に分がありそうな事を確認出来たが、斎藤はゴール地点を間違えてしまい 6 位に終わる。榎木 8 位、中井 12 位、谷 DNF。

男子 40 k 下り基調を進み、女子のスタート地点からは女子と同じコースの 120 km。

市街地からのスタートは良いが、時速 60 k を超えて走る隊列に無関係の車やオートバイが入ってきてしまうカオス状態。暫くして市街を離れるとようやくロードレースらしい隊列となった。登りの前の 10 数人の逃げに小林が入り、メインと 1 分以上開く。登りでメインが追いつきカウンターで先行した選手で上位が決まってしまった。この最初の登坂で猿田が遅れる。2 つ 3 つと登るうちに小林、富尾も遅れる。メインに残る小玉がパンクし、渡した代輪が整備不良（申し訳ない）で DNF となってしまう。5 つ目の登りで馬渡も遅れ、メインには伊藤だけが残る。メインと言っても最後には 6 名程しか残っていないため先行には追いつけず、伊藤は 8 位争いのスプリントで 2 番目となり、9 位となった。馬渡 17 位、

富尾 27 位、小林 30 位、小玉、猿田 DNF

19 日 M T B X E

16 日は出来なかった試走は 17 日に出来ていた。難易度は低いのでパワーがなければ勝てない 1.2km のコース。組合せのための TT を行い即座にトーナメント。インターバルのないトーナメントは見る方は良いが選手はきつい。

女子 相野田は TT4 位。1 位は相野田より遅く見えたマレーシアの選手と言う手元と違うリザルトだったが、組合せ的には問題ない。

準決勝を 1 位で勝ち上がり、決勝ではドイツとポーランドには負けたが 3 位となり銅メダルを獲得。

男子 前田も TT4 位から準決勝。スタートは前を取ったが落車し 3 番手で後半へ、下りスラロームでポーランド選手が落車し 2 番手となる。2 位上がりなので抜かせないクレバーな走りで決勝へ進んだ。決勝は、地力通り 3 位で銅メダルを獲得した。

20 日 XCO 5.3km の周回 ロード選手が全員でサポート。

女子 5 周 XCE には出なかったポーランドの選手がもう一人加わった。落車もあり、ドイツとポーランド 2 名に続く 4 位となった。

男子 7 周 スタートで弾かれたものの 1 周目は 4 名の先頭パックで走る。しかしドイツやポーランドの選手にパワー負けし 4 位に終わった。

全般として欧州選手との差を感じたが、アジアでは十分通用した。しかしモンゴルとフィリピンが順調に強化が進んでいる印象。そして予定は未定を実感することになったがそれも

良い経験になった。